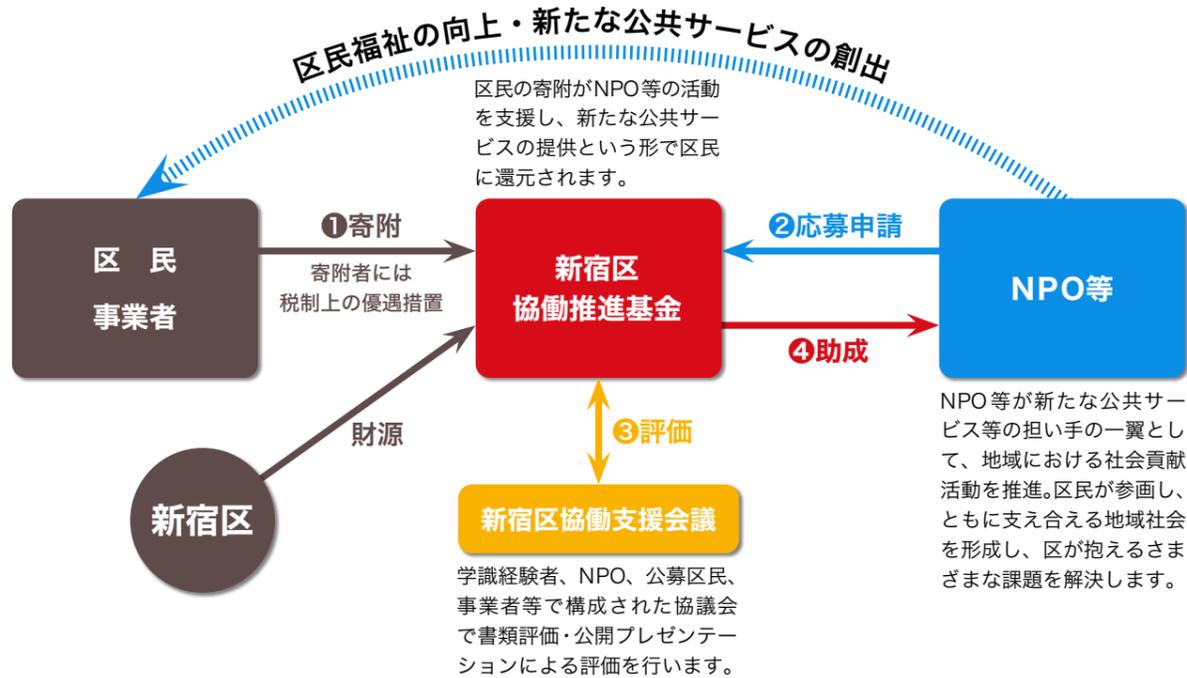


「新宿ソダチ」の目的

「新宿ソダチ」は、新宿区が行っている「新宿区協働推進基金助成金制度」について広く知っていただくために、助成対象になったNPO法人等の事業を紹介しています。

新宿区協働推進基金助成金制度とは？

社会貢献活動を応援したい人(区民・事業者等)と、応援が必要な人との架け橋となる制度です。



新宿区では、地域課題を解決し区民の生活をよりよくするために、社会貢献活動への協働推進基金を活用した助成を通じて、NPO等(特定非営利活動法人・ボランティア活動団体等)の団体が、安定した事業活動を行うための支援を行っています。

区民や事業者など、多くの方から募った寄附金と新宿区の財源を「協働推進基金」に積み立て、NPO等社会貢献活動を行う団体に対して助成金を交付します。助成金上限額は1団体50万円です。団体は助成金を活用して、地域課題の解決や、区民生活の充実に資する事業を行います。

助成対象は？

区民の福祉の向上を目的とした社会貢献活動(営利を目的とせず、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的として、自発的に行われる活動)のうち、次のいずれにも該当する事業です。

- ①新宿区の地域課題や社会的課題の解決を目的とした事業
- ②特定非営利活動法人又はボランティア活動団体等の特性を活かして実施する事業
- ③区民の社会貢献活動の啓発に寄与する事業

新宿区協働推進基金助成金制度の流れ



CONTENS



「新宿ソダチ」の目的

新宿区協働推進助成金制度とは？ 2

令和6年度の助成事業

01 気軽に臨床検査を体験！ 自分の健康を知るきっかけに 4

【事業名】新宿区民を対象とした健康体験フェアと健康セミナー
【団体名】特定非営利活動法人臨床検査支援協会

02 多文化共生社会を目指してオモニと元教員たちが日々奮闘中！ 6

【事業名】外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育・多文化共生社会の実現
【団体名】特定非営利活動法人チャプチョアカデミー

あの団体は今!? [過去に新宿区協働推進基金助成事業に参加した団体の今を追う!]

01 24時間相談と歌舞伎町パトロールで女性たちに寄り添い支援する 8

【団体名】認定NPO法人10代・20代の妊娠SOS新宿
—キッズ&ファミリー(令和4年度助成団体)

02 障害のある人もない人も、ともに笑顔で元気になる 9

【団体名】特定非営利活動法人新宿区レクリエーション協会(平成29年度助成団体)

03 防災に強い街づくりは「多文化」×「多世代」交流から！ 10

【団体名】認定NPO法人CWS Japan(令和3年度助成団体)

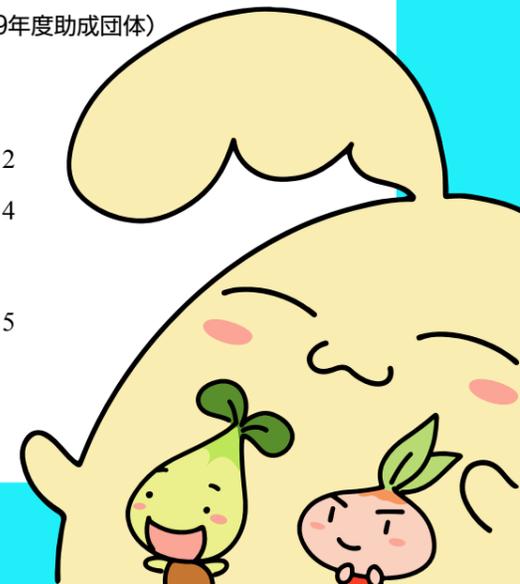
04 外からは見えにくい「聞こえの問題」に寄り添う 11

【団体名】認定NPO法人東京都中途失聴・難聴者協会(平成29年度助成団体)

寄附で社会貢献 12

寄附をしていただいた皆様のご紹介 14

編集後記 15



01 気軽に臨床検査を体験！ 自分の健康を知るきっかけに

【紹介事業】

令和6年度の助成事業 | 新宿区民を対象とした健康体験フェアと健康セミナー

団体名 | 特定非営利活動法人 臨床検査支援協会 助成額 | 370,000円



「自分の血管年齢はどのくらいだろう」「肌年齢は？」
「認知機能は大丈夫かな……」そんな健康が気になる人たちが、11月17日に「健康体験フェア」に集合。
主催は、特定非営利活動法人臨床検査支援協会。
このフェアを開催した主旨や手応えを、同協会理事の小川眞史さんに伺いました。

特定非営利活動法人 臨床検査支援協会

【団体概要】臨床検査技能の向上支援、検体検査の精度向上、学術講演会企画開催、臨床検査及び臨床検査技師の社会的認知向上のための普及啓発を行なう非営利団体。これらの活動を通じて、保健医療を担う人材の確保と質の向上を図り、ひいては国民の健康と医療の発展に貢献していくことを目指す。

〒164-0011 東京都中野区中央1-44-6-100 ステージ中野坂上

TEL 03(5937)1396 URL <https://www.ascl.or.jp/>

今年度の
活動内容

◆健康フェアと健康セミナー

11月17日(日) 開催場所：柏木地域センター
12月15日(日) 開催場所：榎町地域センター

臨床検査の重要性を知ってほしい

同協会は、医療従事者や医療系企業勤務者などの自主的な勉強会兼交流会から始まり、2008年に40歳以上の特定健診(メタボ健診)が義務化されたことをきっかけに活動を始め、2018年にNPO法人を設立。臨床検査技師の技術向上、臨床検査や臨床検査技師の社会的認知向上などを主な目的として、講演会や勉強会の開催、情報誌の発行などを行っています。

今回の助成事業では、一般の方々に、臨床検査に親しんでもらうことを目的に、11月17日、12月15日の2回にわたり、「健康体験フェア」と「健康セミナー」を開催しました。



▲協会理事 小川眞史さん

イベントで気軽に 血管年齢や肌年齢をチェック！

健康体験フェアでは、①骨密度(骨の健康チェック)②血管年齢(血管の硬さ)③AGEs(老化の原因物質)④もの忘れ



① 骨密度測定



② 血管年齢測定



③ AGEs検査

編集委員も検査に参加しました！



④ もの忘れプログラム



⑤ 肌年齢測定



プログラム⑤肌年齢の5項目をチェック。小川さんによると、「血液や尿を採ったり、ドクターの前で服を脱いだりすることなく気軽にできる検査を厳選した」とのこと。

検査を担当するのは、普段は医療機関や医療系企業で働く臨床検査技師たちです。参加費は1人500円。検査機とスタッフの人数に限りがあるため、検査は50名限定。

筆者も、11月17日(日)の健康フェアに参加しました。会場は、柏木地域センター内。同日に「第30回新宿かしわまつり」も行われており多くの人でにぎわう中、健康フェアの会場には1コイン(500円)片手に集まった人たちが列をなしていました。参加者に聞くと、「健康が気になるから」「500円でいろいろな検査ができるから」「最近物忘れが気になって」「気軽にできそうだから」「会社の健康診断とは違う検査もあるから」など動機はさまざま。高齢の方、小さなお子さん連れの方、会社員の男性など、幅広い人たちが受診されていました。

同会場では、検査の待ち時間を利用して、例年この時期に流行する「インフルエンザ予防」をテーマに「健康セミナー」も行われました。ウイルスがどのように広がるのか、消毒は効果があるのかなど、知っていそうで知らない興味深い内容で、皆熱心に聞き入っていました。

健康診断を受けようという行動につながれば…

今回の参加者は定員を超える54名。開催時間を延長するほどの人気ぶりでした。手応えについて小川さんは、「今回のイベントが、自分自身の健康に興味を持つ第一歩にな

ればと思っています。ここでの検査は簡易なものなので、これをきっかけに「きちんと健診を受けよう」と思ってくればうれしいですね」と話します。

今後の課題は、臨床検査や臨床検査技師の認知度向上。「医師は、臨床検査データなしには診療や治療が行えません。それなのに臨床検査の重要性を知らない人が多いのは残念です。今後も広報活動や今回のようなイベントで、臨床検査の認知度を高めていきたい」

新宿区との連携で集客に効果を実感

新宿区の助成を受けたことの効果はどうだったのでしょうか。「同様のイベントはこれまでも開催してきましたが、毎回集客にとっても苦勞しています。今回は、新宿区の広報紙やSNSで告知していただいたり、地域のイベントに相乗りしたことで多くの方に参加していただけてよかったです。検査機のレンタル費が高額なため、助成金をいただけたことも助かりました」

「参加者たちの、「検査を受けて良かった」と笑顔で帰る姿が励み」と小川さん。「今後も活動を継続し、みなさんの健康維持に貢献していきたい」と笑顔で語ってくれました。

(令和6年11月17日取材)

取材を
終えて

自分の血管年齢の老化に愕然とし、骨密度・AGEsの好成績に胸を撫でおろし。今後に活かしていきたいと痛感。(宜保弘和)「美味しいお酒が飲みたい」「仕事で結果を出したい」「旅行に行きたい」…何だかんだ言ってもやっぱり健康第一！(中川奈見)

02 多文化共生社会を目指して オモニと元教員たちが日々奮闘中！

【紹介事業】

令和6年度の助成事業 | 外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育・多文化共生社会の実現

団体名 | 特定非営利活動法人 チャプチョアカデミー 助成額 | 500,000円



2024年12月に開催された、「子どもも大人も楽しめる漢字遊び」。元久保小学校の善元先生が漢字の不思議をレクチャーしたり漢字を部首で分けたカードでババ抜きや神経衰弱をしたり、楽しいひと時を過ごしました。

現在48,000人ほどの外国籍の人が暮らす新宿区。中でも新大久保エリアでは言葉の壁など課題を抱える外国にルーツをもつ子どもたちが増えています。特定非営利活動法人チャプチョアカデミーは、そんな子どもたちが日本での生活に適応し、安心して暮らせる社会を目指して日々奮闘しています。

特定非営利活動法人 チャプチョアカデミー

【団体概要】2023年に法人化。外国にルーツをもつ子どもたちの健全な育成と円滑な地域への適応を支援し、多文化共生の地域づくりに寄与することを目的に、子どもの居場所づくりや学習支援、日本語教室の開催、進路相談等を行っている。

【主な活動場所】新宿区立大久保小学校および大久保地域センター
URL <https://www.jabcho-academy.com/>

今年度の活動内容

- 日本語教室：4～5回/月(毎週水曜日)
- 文化・芸術国際交流事業：12月、7月、3月
- 進路相談サポート・高校受験対策支援事業
- 居場所づくり

外国にルーツをもつ子どもたちが安心できる居場所を

「子どもたちの居場所を作ることが一番大事。子どもたちに寄り添い、彼らを第一に考えて活動している」と、語るのは同団体代表理事の元波慶禧さん。

活動を始めたきっかけは今から約30年前、大久保地域で韓国人が増加し、日本語がわからないことから子どもたちが学校になじめないなど課題を抱えていると知ったことでした。ご自身も当時子育て中だった元波さんは、地域の



▲代表理事の元波慶禧さん。並外れたバイタリティで多くのボランティアを巻き込み、子どもたちの居場所作りをしている。

仲間とともに「オモニ(韓国語で「お母さん」の意)の会」を立ち上げ、まずは韓国人の母親の日本語学習支援をしたり、料理教室を通じた国際交流などの活動を始めました。

その活動の対象は、子どもたちの現状や将来を心配したオモニたちの熱い願いに応え、徐々に小学生から高校生まで幅広い年齢の子どもたちが

が中心になっていきました。

子どもたちは学校でのいじめや地域での孤立といった問題を抱えているので、まずは安心して楽しく時間を過ごせる居場所を提供し、日本語の学習、学校の勉強、悩みや進路相談など、各自のニーズに臨機応変に対応してきました。

団体名の「チャプチョ」は、韓国語で「雑草」の意味。これは当初支援していた子どもたちが「たくましく、抜いても抜いても出てくる」と考えてくれた名前だそうです。

そんなチャプチョアカデミーは、これまでの11年間(NPO法人化してから2年間)で300人近くの子どもたちを支援してきました。コロナ禍には授業がリモートになって学校に行かなくなり、ますます孤立しがちな子どもたちを支援しました。

元教員がボランティアで学習指導

今回の助成事業では、①小中高生への日本語学習や学校の教科学習の支援(週1回)、②中高生への進路・進学相談や受験・対策指導(随時)、③小中高生・保護者、地域の一般市民対象の文化・芸術国際交流(不定期)、④居場所づくりの活動を行いました。学習支援や進路相談の活動は、元学校教員などのボランティアによって行っています。中高生の中には、学校の先生に進学は難しいなど言われた子どもたちもいますが、ボランティアの先生たちのサポートにより、今まで71人が都立高校に合格したそうです。

文化・芸術国際交流イベントとして、昨年7月31日には「朝鮮と日本の歴史について学ぼう・日本と韓国の伝統遊び」、そして12月11日には「子どもも大人も楽しめる漢字遊び」を実施しました。

卒業生の中には、栄養士や建築士になって日本社会で活躍している人もいます。そのような先輩の頼もしい姿は、子どもたちの将来への励みになるのではないのでしょうか。



◀週1回の居場所づくり活動では、元教員たちがボランティアで学習指導をしている。
▶イベントの裏では、ボランティアスタッフが子どもたちのためにおにぎりを作るのに大忙し。



◀東戸山小学校の教員を退職後、理事として参加している深澤さん。「他人のために活動することが生きがいになっている」

「雑草」的活動でよりよい共生社会を目指して

元波さんは、ある子どもとの特別な思い出を共有してくれました。話すのが苦手だったけれど10年間継続してチャプチョアカデミーに通ってくれたその子どもは、無事に高校合格した際に、自分のお小遣いで買った飲み物をくれたそうです。元波さんは、無口なその子の精一杯の感謝の表し方に感動し、あふれる涙を抑えられませんでした。その飲み物は飲めないまま大切に取っているそうです。

活動の今後については、「目の前のことに精一杯で考えたことがない」と元波さん。でも「子どもが一人だけになったとしてもこの活動は続ける」と言い切ります。

外国人に対する偏見や差別が減り、外国人も日本人ももっと住みやすい共生社会。そんな新宿区を目指して、元波さんは今日も活動を続けています。(令和6年11月20日取材)

取材を終えて 元波さんと先生方は「他人のためにやるのが自分の喜びになる」と笑顔で話してくださり、子どもたちを支えるこの活動への情熱にあふれる姿がとても印象的でした。(阿阪奈美)



01 24時間相談と歌舞伎町パトロールで女性たちに寄り添い支援する

【あの団体は今!?】

令和4年度の助成団体 | 認定NPO法人 10代・20代の妊娠SOS新宿一キッズ&ファミリー

〒169-0051 新宿区西早稲田3-8-11 ☎ 080(4676)0428 🌐 <https://www.10dai20dai-ninshin.com/>



▲TOHOシネマ近辺に集まる若い女性たち。毎週金・土曜日の夜にパトロールをし、団体のチラシを配る活動を続けている。

同団体は、家庭内暴力や虐待を受け行き場をなくしたり、望まない妊娠をして誰にも相談できず悩む女性たちに寄り添い支援する活動を続けています。2020年には社会貢献者賞、2023年にはSDGsジャパンスカラシップ岩佐賞、ほか受賞歴多数。事業の柱は、①相談支援、②宿泊提供/一時保護、③食糧や物品提供。そして、困ったときにここに相談すればいいと知ってもらうために毎週金・土曜日の夜8時から11時まで、新宿歌舞伎町界隈をパトロールし、若い女性たちに温かいカイロやリップクリームなどを添えて「相談窓口の案内カード」を手渡しています。歌舞伎町に設置した夜間相談所には「案内カードを見た」と訪れる女性が年々増えているそうです。

「ここ2年で、女性たちの抱える問題はより深刻になった」と代表の佐藤初美さん。「望まない妊娠をして相談に来る人のほぼ100%が家庭で性的も含む虐待を受けてきた人たち。妊娠後期になっても一度も病院を受診したことがなく途方に暮れている人をシェルターで預かることも多いです」。佐藤さんは、女性たちに安心な場を提供し、医療機関や福祉施設など、適切な支援機関につながりだけでなく、食糧や物品の提供等によって出産後の母子の生活支援も行っています。妊娠した女性の妊婦健



▲代表の佐藤さん。保育士を退職後、2016年に現在の活動を始めた。

診にも同行。「最初は『赤ちゃんなんかいらぬ』と言っていたのに、健診でいっしょに赤ちゃんの成長を見守るうちに、『産みたい』と言うようになる子も多い。自分で産むと決めた子は、夜の仕事をすっぱり辞め母子でしっかり自立していくことが多い」と佐藤さん。

しかし、全ての女性たちに支援が届くことは不可能。家庭内の虐待や児童買春もなくなるのでしょうか。佐藤さんは「民間や自治体だけでは限界がある。国の妊娠期から産後のケアをもっと手厚くしてほしい。また、義務教育のうちに包括的性教育を行うことが大事」と話します。包括的性教育とは、性についてだけでなく人権や命の大切さなどを幅広く学ぶこと。自分が大切な存在だと知れば、身体を売ったり望まない妊娠をすることが避けられるかもしれません。

同団体の活動を支えるのはボランティアの方々。活動の継続には寄附が頼り。今後も佐藤さんは、クラウドファンディングも含め、寄附を募ったり助成事業にも積極的に参加していくそうです。(石井栄子)



寄附はこちらから

活動成果(2024年4月～2025年3月15日現在)

パトロール・声かけ・カード手渡し数: 8,215人/夜間相談所来所者数: 延べ243人/パトロール中及び夜間相談所での相談者数: 101人

02 障害のある人もない人も、ともに笑顔で元気になる

【あの団体は今!?】

平成29年度の助成団体 | 特定非営利活動法人 新宿区レクリエーション協会

〒169-0051 新宿区西早稲田1-23-14 ☎ 03(3565)0120



▲2024年11月に新宿コズミックスポーツセンターで開催されたフォーラムの基調講演。テーマは「障害者差別をなくすために私たちがすべきこと～『障害者の社会モデル』から考えよう」

同協会は、「障害者差別をなくし、障害のある人もない人も、レクリエーション活動を通じて交流し健康で明るい豊かな生活をつくろう」という主旨で、スポーツイベントの開催や指導者育成、啓発活動などを行っています。「最初は何もないところから始まって、助成金をいただいてから少しずつ活動の幅が広がってきている」と話す会長の金子和子さん。

啓発活動として毎年行っている「フォーラム」は今年で9回目。最初の3年では「障害を知る」ことをテーマに。次の3年では「障害の疑似体験」。そしてここ3年は、「健常者が障害者のために何かをする」という発想ではなく「障害者は何を求めているのか」を障害者の視点に立って考えるというふうに、段階的に障害についての理解を深めてきました。

たとえば障害の疑似体験では、軍手を2枚重ねて細かい作業をし、その不便さを体感することで、障害者の身に起こっている困難を理解。また、障害者の視点に立って考えるという活動では、今までの「障害者=助けてあげるべき存在」という固定観念が覆り、「障害者の方が障害のない人たちより優れている面もたくさんあるという気づきもありました」と常務理事の奈良和子さん。

同協会の活動のひとつに、「障害のある人もない人も気軽に楽しめるニュースポーツの普及と啓発」があります。2021年の東京パラリンピックでもおなじみのポッチャや、

ラダーゲッター、サッカーボウリングなど、子どもから高齢者まで気軽に参加できるスポーツイベントを行ってきました。コロナで外出困難時にもオンラインでスポーツをするなど、状況に応じた場づくりにもチャレンジしています。

課題は、団体の活動を存続していく後継者や若い指導者の育成。そのための活動のひとつとして、「レクリエーション・インストラクター養成・遊びの達人養成講座」を開講。受講者は、学んだことを幼稚園や保育園、学童クラブ、高齢者施設などいろいろな現場で生かすことができます。

その他、同協会は東京都や新宿区からの委託事業として、スポレクやハイキングなどを企画・運営しています。

「障害者の方は養護学校を卒業すると運動をする機会がほとんどなくなります。でも、身体を動かしたい、運動をしたいという人は多い。そういう方たちのためにもレクリエーションの機会をたくさん提供したい」と金子さん、奈良さん。今後もレクリエーションを通じて、身体を動かす楽しさ、人との交流の大切さを伝える活動を続けていきます。(中川奈見)



▶「障害者の方たちが身体を動かして笑顔になる姿を見るのが生きがい」と金子さん(右)、奈良さん(左)。

03 防災に強い街づくりは「多文化」×「多世代」交流から!

【あの団体は今!?!】

令和3年度の助成団体 | 認定NPO法人 CWS Japan

〒169-0051 新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館25号室 ☎ 03(6457)6840 🌐 https://www.cwsjapan.org/



▲コミュニティカフェでは社会人ボランティアによるお茶や軽食の販売も行っている。

▼「クリスマス歌声カフェ」は新宿区内のボランティアサークルによるウクレレ演奏からスタート。
▶声楽家細田美千代さんとピアニスト石井恵子さんの演奏と、会場も一緒になっての合唱で心を通わせた。

CWS Japanは、国内外で災害対応・防災支援に取り組むNGO。2021年に「災害弱者になりやすい外国人を助けたい!」と申請した「多文化共生型災害に強い地域づくり」が新宿区協働推進基金助成金に採択され、新宿区でもっとも外国人が多い大久保地域を対象とした「多文化共生×防災バーチャルツアー(動画)」を制作しました。あれから3年後の今、毎月第1、3水曜日午後16時にコミュニティカフェを開催しています。「助成事業をきっかけに人の輪が広がりがカフェオープンにつながった」とディレクターの牧由希子さん。場所は日本福音ルーテル東京教会。週1回、日本語教師による日本語学習支援も行われており、宗教問わずアフリカ、中東、アジア等各国の方が教会を訪れているそうです。

コミュニティカフェでは、各国の料理教室や日本の遊びの体験会など、各種イベントも開催しています。集客はチラシやSNSで。料理教室は、チュニジア料理などめずらしい料理を食べられるとあって人気だそうです。

また、大久保高齢者総合相談センター、在日韓国人福祉会、大久保地域センター、地域内の民間の高齢者福祉事業所とも連携。近隣の外国人だけでなく高齢者にも参加を呼びかけ、今ではすっかり地域で知られる存在に。



▲強い熱意で周囲を巻き込むディレクターの牧さん。

取材をした日のコミュニティカフェでは「クリスマス歌声カフェ」が開催されていました。日本人や韓国人の方々約30名が集まり、市民グループによるウクレレ演奏、プロの声楽家とピアニストの演奏、そして歌詞カードを見ながらの合唱などを楽しんでいました。車いすの方や高齢の方も見られ、同団体の目指す「多文化多世代共生」がまさに体现されていました。新宿区は多国籍に加え単身高齢者数が東京都内で豊島区に次ぐ2位(出典:令和2年国勢調査)。どちらも災害弱者になりやすいにもかかわらず、社会から孤立しがち。それならばと、「近所に住む高齢者を含めた多世代交流も視野に入れ活動の幅を広げた」と牧さん。

合唱で何曲か歌い終わった後、隣に座った韓国出身の参加者が「私、歌習いたい」と話しかけてくれました。一緒に歌い、自然と交流が生まれた瞬間でした。

同団体が目指すのは、外国人や高齢者も含めた地域住民たちが連帯し、災害時に助け合う自助と共助を育むこと。「コミュニティカフェに参加し、交流してほしい。居場所にしたい」と熱く語る牧さん。この想いとお互いを知り、有事に助け合う関係性を生み出すと感じました。(瀧澤絵里子)

04 外からは見えにくい「聞こえの問題」に寄り添う

【あの団体は今!?!】

平成29年度の助成団体 | 認定NPO法人 東京都中途失聴・難聴者協会

〒160-0022 新宿区新宿2-15-25 カテゴリー御苑202 ☎ 03(5919)2563 🌐 https://www.tonancyo.org/



▲向かって左から、理事長の宇田川芳江さん、事務局次長の石川千鶴さん、理事の皆川みさ子さん。

中途失聴・難聴者とは、病気や事故で耳が聞こえにくくなったり、聞こえなくなった人、加齢により聴力が低下した人たちのこと。同協会では、その当事者と家族、サポーターの方に向けてさまざまな支援を行っています。具体的には、身体障害者手帳の交付や補聴器、補聴援助システムについての相談、会報誌の発行、講演会、学習会の開催など。オリジナルで作成・配布している、「聞こえに困ったら」という当事者向けのパンフレットは大変好評で、平成29年の新宿区の助成事業では当事者を支える家族や周囲の方に向けた『聞こえに困ったら②』を発行しました。あれから7年、今も活動は続いています。

「70歳以上の2人に1人は難聴と言われています。難聴を放置すると認知症と誤解されたり、認知症に繋がってしまうこともある。聞こえづらさを感じたら補聴器を作ったほうがいいんです。補聴器には軽度難聴用、中度難聴用など、程度によって種類があるので、まずは医療機関を受診し、聴力検査を専門店で調整してもらうのがおすすめ。かなり重くなってからは、慣れるまでが大変ですから」と理事長の宇田川さんは話します。

今年2月には落語に字幕を付けて楽しめる企画も。こうした活動は、聞こえに困っている方々に交流や学びの場を提供すると同時に、聞こえの問題を社会に向けて発信することも目的としています。

「中途失聴は当事者本人はもちろん、周りの家族もショックを受けます」と語るのは事務局次長の石川さん。ご自身も中途失聴のため人工内耳をつけています。聞こえなくなると一番困ったのは家族とのコミュニケーション。家の中では筆談もままならず、毎日喧嘩が絶えなかったといいます。「後天的に失聴・難聴になった人は、話することができるので、聞こえないことを理解してもらえない。最初は筆談をしてくれていた人もだんだん面倒になってやめてしまう。そんな悩みを抱える人たちの避難場所や基地のような存在でありたい」と石川さんは続けます。

理事の皆川さんは健聴者ですが要約筆記者として活躍してきました。「手話ができなくても難聴者を支援する方法は筆談、音声文字変換するアプリ、ジェスチャーなど色々ある。ゆっくり話すだけでもかなり助かります」と強調します。「聞こえの問題は誰にでも起こりうる。でも、聞こえなくなったからといっていろいろな活動をあきらめなくてもいい」と力強く語る皆川さんの姿が印象的でした。(徳留祐子)



▲支える人向けのパンフレット。希望者に無料配布している。▲当事者向けのパンフレット。
▶聞こえが不自由なことを表す耳マーク Ear symbol。このマークをつけている人を見たら、ジェスチャー、ゆっくり話すなどできる方法で手助けしてあげて。
▼毎年開催しているイベント「集い」のチラシ。今年の演目は後藤繁榮氏による記念講演と桂蝶の治さんの字幕付き落語。



寄附で社会貢献

「社会貢献をしたいけど何をしたらいいかわからない」「誰かのために活動したいけど時間がない」。そんな方は、新宿区協働推進基金に寄附をしてNPOを応援しませんか？

ジンジン ねえ NPOってしってる？

スケくん 見て！

ナルちゃん

ジンジン

NPOって地域のみんなが楽しく暮らせるように

利益を求めないで活動する団体のことなんだって

でもこれを読んだだけじゃよくわかんないんだよね〜

じゃアミニイク？

ジンジン

モコモコ

新宿駅チカクダヨ！

ここどこっ？

※ジンジンは土の精霊なので土がある場所ならどこでも移動可能

あれジンジン？

ひさしぶり〜

こんには 今日はおともだちもいっしょなの？

キラ

ミラ

へえ〜 みんなでNPOの活動を見学してきたの？

それなら案内してあげるよ！

ジンジン 飛行機モード

マンガ：品玉ちなみ

ほら！たとえばこんな活動があるよ

障害で悩む子どもや家族をサポートするNPO

家庭に問題を抱えて行き場のない子どもたちに寄り添うNPO

日本で暮らす外国人の力になろうとするNPO

新宿区の登録団体だけで100以上あるんだよ！

スケくん

ナルちゃんも何かしたいって？

えっ？

NPO活動にボランティアとしてお手伝いしたりイベントに参加するのも協力のひとつ

それから寄附で活動を支えることもできるよ

寄附ってお金？

そう！NPOの活動はみんなの優しさから

集まったお金が支えているんだ

いろんな事情で直接参加が難しい人でも

寄附で協力できるって知ってほしいな！

あぁ！

誰かの助けになりたい気持ちが何より大切だよ！

みんなに知らせてね！

たっさん見てくれるといいな！

ココを見て！

新宿区協働推進基金

スケくん
協働の花畑に植えられた謎の花の球根。のんびりやの男の子。

ナルちゃん
スケくと仲良しの球根の女の子。シャイだけどしっかり者。

ジンジン
スケくん、ナルちゃんを見守る土の精霊。土なので変身が得意だが乾燥に弱い。

新宿区地域振興部地域コミュニティ課

お問い合わせ
住所 〒160-8484 東京都新宿区歌舞伎町1-4-1 地域コミュニティ課管理係
窓口 新宿区役所本庁舎1階15番 電話 03(5273)3872 FAX 03(3209)7455

【インターネットの場合】「新宿区ふるさと納税特設サイト」を利用して寄附が行えます(個人の方限定でクレジットカード決済のみ)。詳しくは区ホームページへ。

【郵送の場合】「協働推進基金寄附申出書」※に必要事項を記入して郵送してください。区から寄附金の納付書が返送されますので、銀行や郵便局など金融機関から振り込んでください。納付書についている領収書をお受け取りください。

【直接持参いただく場合】「協働推進基金寄附申出書」※に寄附金を添えて、新宿区にお持ちください。窓口は「地域コミュニティ課」または「各特別出張所」です。

※「協働推進基金寄附申出書」の入手方法

- 15ページの下段の寄附申出書をご利用ください。
- 「地域コミュニティ課」や「各特別出張所」の窓口にもあります。
- 地域コミュニティ課にお電話くだされば郵送します。
- 新宿区のホームページからもダウンロードできます。

https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_03_00001.html

寄附のご協力をお願いします

協働推進基金助成金制度は、区の財源と、みなさんからの寄附金からなる新宿区協働推進基金を原資としています。社会貢献活動の活性化のため、ぜひ寄附のご協力をお願いします。

寄附をしていただいた皆様のご紹介

令和5年度 新宿区協働推進基金寄附実績

寄附申出日	寄附者種別	寄附の金額	寄附者の名称(敬称略)
令和5年 4月 5日	個人	70,000円	塩崎 修平
令和5年 4月 24日	個人	30,000円	福島 久男
令和5年 7月 6日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和5年 7月 31日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和5年 8月 14日	個人	300,000円	匿名
令和5年 9月 11日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和5年10月 16日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和5年11月 7日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和5年11月 29日	個人	60,000円	匿名
令和5年12月 11日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和5年12月 19日	個人	100,000円	匿名
令和5年12月 30日	個人	5,000円	匿名
令和6年 3月 29日	個人	2,000円	匿名
寄附額合計	13件	627,000円	

令和6年度 新宿区協働推進基金寄附実績 (令和6年12月末日現在)

寄附申出日	寄附者種別	寄附の金額	寄附者の名称(敬称略)
令和6年 4月 8日	団体	20,000円	NPO ひとまちっくす
令和6年 5月 2日	個人	30,000円	福島 久男
令和6年 5月 20日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和6年 8月 2日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
令和6年12月 29日	個人	3,000円	匿名
寄附額合計	5件	73,000円	



◆新宿区協働推進基金は、区民が享受するサービスを区民自らの寄附金で実現するかたちとして、平成16年に設置されました。

◆令和5年度は、寄附金**627,000円**を積立て、令和5年度末残高は**16,485,645円**となっています。



編集後記

NPOで意義ある社会活動をしている素敵な皆さんの魅力を限られた紙面でどう伝えるのか、編集委員の皆さんと色々勉強させていただき貴重な経験でした!

(阿阪)

デジタル版となった『新宿ソダチ』の編集制作活動にまた楽しく取り組むことができました。多くのNPOが様々な課題に立ち向かっており、それを推進する方々の情熱に毎回心打たれるばかりです。(HA)

臨床検査が自分の健康について、いかに

大切か、医師の診察・治療に絶対に欠かせないことや検査技師の大変さなどを知る良い機会になりました。病院の血液検査結果をじっくり見ていきたい。

(宜保弘和)

NPOの皆さんのパワーに圧倒され、人情に泣かされた編集活動でした。たくさんのお会いに感謝です。(品玉ちなみ)

編集者として初めて活動しました。取材を通して知らなかった活動を知ることができました。これからも自分の言葉で素晴らしい活動を伝えていきたいです。

(瀧澤絵里子)

昨年に続き2度目の参加で、知れば知るほど奥深いNPOのセカイ。取材は新鮮な驚きと発見に満ちていますが、規定の文字数にまとめ上げるのは一苦労。でも達成感も一入(ひとしお)です。(yuco)

「楽しみながら」「誰かのお役に立つ」、同じ価値観を共有する人々との素敵な出会いに、心も豊かにしてくれる貴重な経験をいただき感謝感謝です!!(中川奈見)

お祭りや調理の現場を訪れ、活気あふれる瞬間に出会いました。『新宿ソダチ』取材は今年も、賑やかで楽しい時間でした。

(野口慶子)

「新宿ソダチ2024-2025」を作ったのは?

新宿区地域振興部地域コミュニティ課による「新宿区協働推進基金助成事業」で紹介『ウェブマガジン』編集委員に応募し採用されたメンバーが作成しました。※令和7年度の開催については詳細が決まり次第区広報紙及びHPで公開予定です。

協働推進基金寄附申出書

新宿区長あて

年 月 日

私(当法人)は、協働推進基金の目的に賛同し、新宿区に対し下記のとおり寄附します。

記

1. 氏名(法人名・代表者氏名)

2. 住所

連絡先 ☎

3. 寄附金額 金 円

4. 希望する活動分野(活用先を希望される場合のみご記入ください。)

活動の分野をご希望の方は、以下の活動分野に○を付けてください(複数記載可)。

保健・医療・福祉	災害救援	情報化社会
社会教育	地域安全	科学技術
まちづくり	人権擁護・平和	経済活動
観光	国際協力	職業能力開発・雇用機会拡充
文化・芸術・スポーツ	男女共同参画	消費者の保護
環境	子どもの健全育成	市民活動支援

お預かりした寄附金は、新宿区協働支援会議の協議を経て、新宿区が助成先及び金額を決定します。ご希望いただいた活用先につきましては、最大限尊重させていただきますが、必ずしも希望先に助成できるものではありません。また、ご希望にそえなかった場合も、寄附金を返還することはできませんので、ご了承ください。

ご寄附いただいたことについて、お名前と金額を広報紙等に掲載させていただくことがあります。掲載することに同意くださる場合は、ご署名をお願いします。

氏名(法人名・代表者氏名)



発行 / 2025年3月

編集人 / 石井栄子(いしふる)
編集委員 / 阿阪奈美、有馬弘純、宜保弘和、
品玉ちなみ、瀧澤絵里子、徳留祐子、中川奈見
デザイン・DTP / 大野佳恵
撮影 / 野口慶子
イラスト / 品玉ちなみ

「新宿区協働推進基金助成金制度」および「新宿ソダチ」について、ご意見、ご感想などがありましたらお気軽にご連絡ください。

「新宿ソダチ」に関するお問合せ先

新宿区地域振興部地域コミュニティ課管理係

TEL 03(5273)3872 FAX 03(3209)7455 URL <https://www.city.shinjuku.lg.jp/>